

氏名	宇賀麻由
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5396 号
学位授与の日付	平成 28 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Chronic interstitial pneumonia in young patients undergoing lung transplantation or autopsy: clinico-radiologic-pathologic observations from a single institution (肺移植もしくは剖検を施行された若年慢性間質性肺炎群における臨床画像病理の比較検討：単施設研究)
--------	---

論文審査委員	教授 松川 昭博 教授 郷原 英夫 准教授 金廣 有彦
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

進行性の慢性間質性肺炎は治療抵抗性であることが多く、一般的に 50 歳以上に好発し特発性肺線維症(IPF)/通常型間質性肺炎(UIP)と診断されるものが大部分を占める。しかし、IPF/UIP は 50 歳以下の若年者においては稀である。

これまで、若年者の予後不良間質性肺炎に関して画像・病理所見についての大規模な研究はない。本研究では、50 歳以下の若年患者における予後不良の慢性間質性肺炎を対象とし HRCT (high-resolution computed tomography) 所見を中心に臨床・画像・病理所見の比較検討を行った。

対象は15例(14例の肺移植症例および1例の剖検例)で男性8例、女性7例、平均34.8歳であった。HRCT上、最も顕著な所見は網状影でありHRCT所見上UIPパターン2例、非UIPパターン11例、分類不能2例であった。病理所見ではUIP5例、probableUIP4例、possibleUIP1例、非UIP5例であった。臨床診断としてはIPF/UIP1例、possible IPF/UIP1例、膠原病肺7例、fibroticNSIP1例、分類不能5例であった。

画像上、最も顕著な所見は網状影であり大部分の HRCT 所見は典型的な IPF/UIP とは異なるものであった。IPF/UIP は若年者の予後不良な慢性間質性肺炎としては稀であった。

論文審査結果の要旨

若年者の予後不良間質性肺炎に関して画像・病理所見についての大規模な研究はない。本研究では、50歳以下の若年患者における予後不良の慢性間質性肺炎を対象としHRCT (high-resolution computed tomography)所見を中心に、臨床・画像・病理所見の比較検討を行った。HRCT上、最も顕著な所見は網状影でありHRCT所見上UIPパターン2例、非UIPパターン11例、分類不能2例であった。病理所見ではUIP 5例、probable UIP 4例、possible UIP 1例、非UIP 5例であった。臨床診断としてはIPF/UIP 1例、possible IPF/UIP 1例、膠原病肺7例、fibrotic NSIP1例、分類不能5例であった。以上より、IPF/UIPは若年者の予後不良な慢性間質性肺炎としては稀であるとの結論に至った。

特発性肺線維症(IPF)/通常型間質性肺炎(UIP)は一般的に50歳以上に発症し、50歳以下の若年者においては稀とされる。本研究でも、IPF/UIP症例は少ないことが確認された。症例の原疾患に膠原病肺が多く、その影響が最終結果に関与すると考えられるが、若年者の間質性肺炎の画像・病理所見を検討した意義は大きい。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。